

～益城の若もんも、がまだしょっぱい！～

町でうわさの若者を紹介。
夢に向かって全力で進む若者を応援します。

頑張っているもの

空手道(極真空手)

やまうち しりゅう
名前 **山内 史龍** くん(14)

行政区 惣領 1 町内

益城中学校 2 年生

2014 全日本青少年空手道選手権大会出場

2015 全日本青少年空手道選手権大会出場

第 28 回全九州空手道選手権大会中学 2・3 年男子の
部 軽量級優勝

所属：極真会館熊本県支部益城道場



子どもたちの威勢のいい掛け声が体育館に響き渡る。そこは極真空手道場。その中でもひと際大きな声を出し、素早い動きを見せるのは山内史龍くん。普段は優しい少年だが、練習になると一転、鋭い視線で相手に容赦なく拳を打ち込んでいく。

選手、指導者として活躍している、父寛史さんの影響で空手を始めたのは5歳の時。最初は何だか分らないでやっていた史龍くんだったが、気づけば「その迫力のすごさにハマっていました」と魅力を語る。

小学2年の時、県大会で初めて優勝した。そこで「勝つ味」を覚えると、「もっと強くなりたい」と練習に一段と熱が入っていった。

中学生になると、それまで続けていたサッカーをやめ、空手に専念した。練習のない日は他の道場へ行ったり、ランニングをしたりするなど、自主トレを怠らない。練習は「毎回厳しくきついけど、やめようと思ったことはありません」と話す史龍くん。母の美和さんも「熱がある時、『休んでいいよ』と言っても休みませんね」と、芯の強さに感心する。

今年の全日本青少年空手道選手権大会では、僅差の判定で負けはしたが、国際大会にも出場する実力者相手に互角に戦った。「強い相手という戦いができて、とても自信になりました」。そう話した直後、史龍くんの表情が引き締まった。「でも、悔しい思いが強いので、もっと強くなって来年は全国制覇をしたい」と、次の目標をはっきりと口にしていた。

来年の全国大会の舞台では、さらに磨き上げられた得意の「左の突き」がさく裂し、頂点に立つことを期待したい。